

2018年9月17日掲載

口腔機能低下症
全身的な健康損失も

口腔（こうくう）機能低下症とは、病気や障害などのさまざまな要因によって、口腔の機能が低下している状態をいいます。放置しておくと、食べたり飲み込んだりする機能に障害がおこり、全身的な健康を損ないます。特に高齢者においては、むし歯や歯周病、入れ歯などの不具合などの口腔の要因に加えて、加齢や全身疾患によって口腔の機能が低下しやすく、低栄養や廃用、薬剤の副作用などによって複雑な状態となります。

症状としては、口腔内の細菌の増加、口腔乾燥、かむ力の低下、舌や口唇の運動機能の低下、舌の筋力の低下、咀嚼（そしゃく）や嚥下（えんげ）機能の低下など、複数の口腔機能が低下してきます。

口腔機能低下症の治療の目的は、口腔機能のさらなる悪化を予防し、機能障害に至らないように口腔の機能を維持、回復することです。全身疾患、飲んでいる薬剤、認知機能の程度、肺炎の既往などを評価し、全身管理をするのはもちろんですが、むし歯や歯周病などの歯科の病気の治療を行い、口腔機能の精密検査により診断された口腔機能の低下に対して、その症状や患者さんの特性に応じた口腔機能訓練を行うことが必要です。

最近、しゃべりにくくなった、むせることがある、食べこぼしするようになった、かめない食べ物が増えたなどの症状があった場合には、お近くの歯科医院で相談してみましょう。